

公教育に見られる政治と宗教の分離 とその類型の日欧比較

ほとんどのヨーロッパやアジアの国々の憲法において信仰の自由と政教分離が定まっている。しかし、同じく宗教が政治から分離されていると言っても、この原理の実現はそれぞれの社会によってずいぶん異なっている。このような相違は公共圏に様々な形で出現するが、最も目立った場面の一つは公教育という領域であろう。本発表の目的は、主に日本、ドイツやフランスの教育制度の事例を踏まえて、それぞれの政教関係の歴史をたどりながら、今日の相違を分析して、多文化時代のもとに宗教政策がどのような課題に直面しているかを考えることである。

講師：ハンス・マーティン・クレーマ 教授（ハイデルベルク大学）

コメンテーター：宇野田尚哉 准教授（大阪大学文学研究科）

橋本順光 准教授（大阪大学文学研究科）

司会：浜渦辰二 教授（大阪大学文学研究科）

2016年

5月26日(木) 15:00 ~ 17:00

文学部中庭会議室



主催：大阪大学文学研究科「グローバル日本研究クラスター」

共催：ハイデルベルク大学日本学研究所 ISAP（国際共同研究教育パートナーシッププログラム）

連絡先：浜渦辰二（内線 2127、cpshama@let.osaka-u.ac.jp）